

1 研究主題

「豊かな人間性を育てる道德教育の推進」～協働で学び合う応答のある授業を通して～

2 研究の概要

昨年度までの「話すこと・聞くこと」に焦点をあてた研究を生かし、児童が応答し合う活動によって道德の授業を活性化し、児童の道德性を高めていくことをねらって研究を推進した。

研究の方法

「道德の授業」の研究推進を核とし、授業実践に関連させ環境整備や生徒指導にあたる。

研究の仮説

資料分析構造図をもとに教材解釈を行い、道德的価値に到達できる指導過程を仕組みれば、自分の思いをもち、価値の主體的自覚ができるであろう。

協働で学び合う集団づくりを基盤とした授業展開を工夫すれば、応答のある授業が可能になるであろう。

資料離れを工夫すれば、道德的实践力が高まり、生活の中で生きて働く道德的实践が期待できるであろう。

「書く」という沈黙の場を保障し、設定すれば、より深く自己を見つめ、自分自身に問いかけるであろう。

検証方法

毎日の授業の検証 生徒指導・学習集団の状況の把握 アンケート 道德性の実態調査等

3 心に響く道德の授業「ベスト3」(* は中心発問)

第1学年 勇気 1 (3) 資料名「いけないよ」(東京書籍・みんななかよく)

ねらい さくの中のリンゴを、人が見ていないからとろうとした友達の行為をきちんと注意しやめさせた
トンタの心情に共感し、正しいと思ったことを積極的に行動していこうとする心情を培う。

授業内容(発問の流れ)

友達がいけないことをしているのを見たとき、あなたはどうしますか。

りんごをみつけたとき3匹はどうしたでしょう。

トンタは腕を組んで何を考えているのでしょうか。

「いけないよ。だれかのりんごだよ。」と大きな声で言ったときトンタ

はどんな気持ちだったでしょう。

二人はどんな返事をしたでしょう。

二人の返事を聞いてトンタはどんな気持ちだったでしょう。

言いにくいことも勇気を出して注意したことがありますか。そのとき



どんな気持ちでしたか。

第4学年 尊敬・感謝 2 - (4) 資料名「きつねとぶどう」(教育出版・心つないで)

ねらい 危険をかえりみず小ぎつねを救ったお母さんとそれを知った小ぎつねの心情を考えることを通して、世話になっている人に、尊敬と感謝の気持ちを持って接しようとする態度を育てる。

授業内容(発問の流れ)

ありがとうって最近どんなときに言いましたか。

ぶどうをくわえて大急ぎでもどっているお母さんはどんなことを考えていたでしょう。

「早く逃げなさい。」と叫んだとき、お母さんはどんな気持ちだったでしょう。

ぶどうがなっているわけに気がついた頃はどのようにして「お母さんありがとう。」と言ったでしょう。

自分の生活を振り返ってありがとうといったらいいなということがありますか。

第5学年 生命尊重 3 - (2) 資料名「命がないとはじまらん」(東京書籍・希望をもって)

ねらい 交通事故にあってもくじけずがんばる兄の姿を見て、生きることの素晴らしさに気づいた主人公の心情に共感し、どんなことがあっても命を守っていこうとする心情を培う。

授業内容(発問の流れ)

「命がないとはじまらん」というタイトルからどんな話だと予想しますか。

「右腕がないなんて」と言ったお母さんは何を心配しているのでしょうか。

リハビリに励むあつ君を見てわたしはどんなことを考えたでしょう。

子どもが生まれたあつ君はどんな気持ちだったでしょう。

「命がないとはじまらん」というお父さんの言葉は、どんな意味だったと主人公は思ったのでしょうか。

あつ君が今、あなたたちに話をしてくれるとしたら、どんな話をしてくれると思いますか。

